

意地のイメージ：高校生と大学生の比較

永井 知子
串崎 真志

I. 問題

「意地」を辞書で引いてみると、①気だて。心根。根性。②自分の考えを通そうと思うことを無理に押し通そうとする心。③物をむやみにほしがる気持ち。特に、食べ物に執着する心（大辞泉，1998）とある。このように、日常生活において意地は、否定的な意味で使われることが多い。たしかに、意地を張り続けることが、引くに引けないところまで自分を追い込むことはあろう。その結果、周囲からの孤立を余儀なくされ、しばしば「意地が悪い」と難詰されたりもする。しかし一方で、意地こそ自分を励まし、初志貫徹する原動力になっているとも考えられる。人はときに、「意地でも」頑張ろうとし、自らの信念を貫き通す。逆に「意気地なし」とは、そのような意志の弱さを指す言葉であらう。

筆者らは、意地のこのような二側面に注目し、実証研究に着手した（永井・串崎，2006a，2006b，2006c，2007a，2007b）。未だ基礎研究の段階であるが、たとえば永井・串崎（2006a）では、大学生を対象として「意地尺度」を作成し、消極的意地と能動的意地の二側面を含む、安定した3因子構造を見出すことに成功した。本研究では、同年に行った高校生サンプルの結果を報告したい。まず、①高校生の意地の構造を検討し、大学生のそれと比較する。次に、②「意地っぱりな人」に対する彼らのイメージを調査し、大学生との比較を試みる。いずれも基礎資料の域を出ないが、若干の考察を加え、意

地の発達研究に向けての礎としたい。

II. 方法

1. 手続き

大阪府内の高等学校2年生に調査用紙を配布、記入もれがある者を除外した171名（男性110名、女性61名）を分析対象とした。大学生サンプルは、記入もれがある者と年齢が25歳以上の者を除外した281名（男性88名、女性193名）を分析対象とした（永井・串崎，2006aと同一サンプル）。調査時期は、いずれも2005年11月で、授業時間を利用して集団で実施し、その場で回収した。

2. 質問紙の構成

本研究の分析に用いる質問項目として、次の2種類を含めた。

(a)意地尺度（短縮版）（永井・串崎，2006a）15項目。

(b)「意地っぱりな人」のイメージを評定するための形容詞16項目。事前に実施していた自由記述を参考に作成した。

(a)(b)ともに、各項目の回答は、「1 = ぜんぜんそう思わない」から「6 = まったくそう思う」の6件法であった。

III. 意地尺度（短縮版）の結果

1. 因子分析

「ぜんぜんそう思わない」から「まったくそ

う思う」をそれぞれ1～6点として得点化した。15項目について、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、3因子が得られた（表1）。項目の内容からそれぞれ、第Ⅰ因子は「意志の強さ」、第Ⅱ因子は「素直になれなさ」、第Ⅲ因子は「頑固」として解釈された。これは、大学生版（永井・串崎，2006a）の結果と同一であった。

2. 平均値と標準偏差

意地尺度得点の平均値、標準偏差、標準誤差、尖度、歪度を表2に示した。また、性差を検討するため、一要因の分散分析を行った。その結果、いずれの尺度についても有意差はみられなかった。

3. 下位尺度

因子分析で得られた3因子から、下位尺度を構成した（表2）。それぞれの平均値と標準偏差は、「素直になれなさ」（平均16.94、SD4.98）、「意志の強さ」（平均19.29、SD4.78）、「頑固」（平均16.01、SD4.63）であった。内的整合性を検討するために、Cronbachの α 係数を求めた。尺度総得点において $\alpha=.74$ 、「素直になれなさ」で $\alpha=.67$ 、「意志の強さ」で $\alpha=.69$ 、「頑固」で $\alpha=.64$ と、やや低い結果となった。

4. 高校生と大学生の比較

学年（大学生・高校生）と性別（男性・女性）によって、「素直になれなさ」「意志の強さ」「頑固」の各下位尺度の平均値に差があるかどうかを検討するため、二要因の分散分析を行った（表3）。その結果、「意志の強さ」について有意な交互作用がみられた（ $F(1, 488)=9.97, p<.01$ ）。交互作用が有意であったことから、単純主効果の検定を行った。その結果、男性において、学年の単純主効果（ $F(1, 448)=24.23, p<.001$ ）、大学生において、性別の単純

主効果が有意であった。すなわち、男性においては、学年があがるにつれて「意志の強さ」が上昇するのに対して、女性においてはそのような変化はみられなかった。

5. 確認的因子分析とパス解析

因子分析で得られた意地の3因子構造を確認するため、Amosを用いて確認的因子分析を行った。最初に、3つの因子がそれぞれ該当する項目に影響を与え、すべての因子間に共分散を仮定したモデルを分析した。適合度指標は、 $\chi^2=220.775$ 、 $df=87$ 、 $p=.000$ 、 $GFI=.852$ 、 $AGFI=.796$ 、 $CFI=.726$ 、 $RMSEA=.095$ 、 $AIC=286.775$ であった。次に、検定統計量や修正指数にしたがって、「素直になれなさ」を独立させ、項目間や誤差項間にもパスを加えた。こうして分析を重ねた結果、最終的に、 $\chi^2=97.504$ 、 $df=81$ 、 $p=.102$ 、 $GFI=.935$ 、 $AGFI=.903$ 、 $CFI=.966$ 、 $RMSEA=.035$ 、 $AIC=175.504$ という、モデルが得られた。図1に、有意なパスとその標準化推定値を示した。結果は、大学生サンプル（永井・串崎，2006a）で見出されたモデルとはやや異なっていた。

IV. 「意地っ張りな人」のイメージ

1. 因子分析

「ぜんぜんそう思わない」から「まったくそう思う」をそれぞれ1～6点として得点化した。16項目について、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、高校生、大学生ともに3因子が得られた。（表4a，4b）。高校生と大学生では、因子を構成する項目に違いがみられたが、内容に大差ないと判断し、同一の因子名とした。項目の内容からそれぞれ、第Ⅰ因子は「陽気」因子、第Ⅱ因子は「冷淡」因子、第Ⅲ因子は「穏便」因子として解釈された。高校生の第Ⅰ因子に「優しい」を加えたものが、

大学生の第Ⅰ因子となっており、高校生の第Ⅲ因子から「優しい」を除き、「暗い」を加えたものが、大学生の第Ⅲ因子になっていた。大学生の「不安定な」の項目は、すべての因子に低い負荷量を示していた。

2. 平均値と標準偏差

各形容詞の平均値、標準偏差、標準誤差、尖度、歪度を表5に示した。また、性差を検討するために、一要因の分散分析を行った。その結果、「怖い」という項目のみ、女性が男性に比べて有意に高かった ($F(1, 450) = 5.21, p < .05$)。

3. 高校生と大学生の比較

高校生と大学生で、平均値に差があるかどうかを検討するため、一要因の分散分析を行った(表6)。その結果、以下の9項目で有意差がみられた。「明るい」($F(1, 450) = 4.95, p < .05$)、「積極的な」($F(1, 450) = 5.38, p < .05$)、「にぎやかな」($F(1, 450) = 7.17, p < .01$)、「保守的な」($F(1, 450) = 7.30, p < .01$)、「不安定な」($F(1, 450) = 9.91, p < .01$)、「冷たい」($F(1, 450) = 5.14, p < .05$)、「怖い」($F(1, 450) = 10.21, p < .01$)、「静かな」($F(1, 450) = 9.12, p < .01$)、「つきあいにくい」($F(1, 450) = 4.70, p < .05$)。「明るい」「にぎやかな」「不安定な」の3項目は、高校生が大学生よりも有意に高く、「積極的な」「保守的な」「冷たい」「怖い」「静かな」「つきあいにくい」の6項目は、大学生が高校生に比べて有意に高かった。

V. 考察

1. 高校生の意地の構造

確認的因子分析では、大学生サンプル(永井・串崎, 2006a)で見出されたような、「素直になれなさ」→「頑固」→「意志の強さ」というパスは、確認できなかった(図1)。パス図

を見ると、高校生の意地は、大きく「消極的意地」(「素直になれなさ」と「能動的意地」(「意志の強さ」「頑固」)に二分されている。おそらく、意地としての「意志の強さ」が明確に分離し、3因子間で影響関係が生じるのは、大学生以降と推測される。このことは、(男性サンプルにおいて)「意志の強さ」が大学生で上昇する(表3)ことと合致する。

図1の一部の項目において、「意志の強さ」から「素直になれなさ」、あるいは「頑固」から「素直になれなさ」へのパスが見出されたことは、高校生の意地を考えるうえで興味深い。思春期特有の自立への強い思いが、ときに頑なな自己主張となったり、引くに引けない「素直になれなさ」として表れるのではないか。

2. 思春期と意地

思春期は、子どもから大人への過渡期といわれる。身体的には大人であっても、心理的には未成熟さを残している。成長と成熟のアンバランス、あるいはそこから生じる不安定さが、しばしば指摘されてきた(伊藤, 2006; 柴崎, 2004)。思春期はまた、「自我の目覚め」ともいわれる。いわゆる自意識が高まり、自分自身を客観的に眺め、「自分は何者なのか」という実存的な問いが生まれる(伊藤, 2006)。柴橋(2004)が述べるように、そこには親からの自立という課題がある。彼らの俳句には、そのような心境がよく表れていると思う(龍谷大学, 2006)。

親という浮き輪をはずして泳ぎたい(高校1年)
現実には裏まで見えない水中花(高校2年)
満月よ僕は確かにここにいる(高校3年)

親に甘えている自分と、そこから抜け出して自由に生きたい自分。実存的な問いを持ちつつ、他人の心に敏感になり、将来に対する漠然とし

た不安をもつ。ときには、今ここに立っている自分を確かめるべく、自分と向きあおうとする。このような思春期の心性が、能動的意地を生じさせるのではないか。

3. 意地の発達

発達的に見れば、意地の始まりは「素直になれるさ」一因子であったと考えられる。思春期に入ると、そこに「能動的な意地」が芽生え始める。ただし高校生のそれは、「素直になれるさ」との間を往還する不安定なものだ(図1)。能動的意地といっても、彼らの表現は未熟で、ときに周囲の抵抗にさえあうだろう。しかしそれでも、「頑固」に自己内対話を続けることで、「意志の強さ」という自分の基軸を得る。こうして大学生にもなれば、意地の多様な機能を活かすことが可能となる。このことは、「意地っ張りな人」に対するイメージからも伺えるだろう。大学生の意地のイメージは、高校生に比べて、意地の多様な側面を捉えているといえる(表6)。

文献

伊藤美奈子編(2006)『朝倉心理学講座16思春期・青年期臨床心理学』朝倉書店。
松村明編(1998)『大辞泉』小学館。

永井知子・串崎真志(2006a)「意地尺度(短縮版)の作成」『平成17年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』(関西大学大学院社会学研究科), pp.177-187.

永井知子・串崎真志(2006b)「クラスター分析で見た意地の4類型:自由記述の比較」『千里山文学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協議会), 75, 91-100.

永井知子・串崎真志(2006c)「恋愛場面における意地の表現」日本人間性心理学会第25回大会(愛知学院大学)個人研究発表.

永井知子・串崎真志(2007a)「大学生における意地の構造:尺度構成の試み」『平成18年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』.

永井知子・串崎真志(2007b)「大学生における意地表現の特徴:意地表現尺度の作成」『千里山文学論集』(関西大学大学院文学研究科院生協議会).

龍谷大学編(2006)『青春俳句大賞』東方出版(p.142, p.126, p.133).

柴橋祐子(2004)『青年期の自己表明に関する研究:中学・高校生の友人関係を対象として』風間書房.

表1 意地尺度（短縮版）の因子分析（主因子法、Promax回転）

	I	II	III
3.人が何と言おうと、自分のやるべきことをまっとうしたい.	.75	-.12	.09
4.納得できるまで、ねばり強く取り組むくむほうだ	.60	.08	-.05
9.まわりに流されるのは、ごめんだ	.53	.01	.09
10.人の評価や、損得勘定を抜きにして、自分の信念を貫きたい	.47	-.11	.19
6.安易な妥協はしたくないほうである	.43	.15	-.12
8.人から優しくされると、戸惑いを感じてしまう	-.18	.57	.26
7.人の自分に対する気持ちを、信じられないことがある	-.05	.56	.12
5.心の中に、いつも素直に甘えられない自分がある	.44	.56	-.23
2.人のやさしさを素直に受け入れることができない	-.09	.56	.19
12.寂しいときに、素直に寂しいと言えないことがある	.13	.42	-.11
1.自分がこうしたいと思ったら、わがままを言って、相手を困らせてしまうことがある	.11	.03	.58
15.気をつかっているつもりが、頑固だと言われることがある	-.05	.12	.49
14.相手が自分の思い通りにならないとき、嫌な態度をとってしまう	.03	.11	.49
13.人からはしばしば、頑固だと言われる	.10	.04	.41
11.自分の考えを通そうとするとところがある	.45	-.11	.36
因子間相関			
I	-	0.13	0.25
II	0.13	-	0.1
III	0.25	0.1	-

表2 意地尺度（短縮版）の平均値と標準偏差

尺度	全体 (N=171)				男性 (N=110)	女性 (N=61)
	平均値	標準誤差	歪度	尖度		
素直になれなさ (5項目; $\alpha = .672$)	16.94 4.98	.38	.22	-.06	17.04 4.85	16.75 5.25
意志の強さ (5項目; $\alpha = .691$)	19.29 4.78	.37	-.32	-.15	19.10 5.15	19.64 4.05
頑固 (5項目; $\alpha = .643$)	16.01 4.63	.35	.35	.17	16.17 4.83	15.70 4.28
尺度総得点 (15項目; $\alpha = .738$)	52.23 10.17	.78	.23	.88	52.31 10.85	52.10 8.89

注1. 下段の数値は標準偏差を示す

表3 学年と性別による各得点と分散分析

尺度	高校生		大学生		分散分析
	男性 (N=110)	女性 (N=61)	男性 (N=88)	女性 (N=193)	
素直になれなさ (5項目; $\alpha = .672$)	17.04 4.85	16.75 5.25	17.38 5.53	17.26 4.88	大>高,男>女**
意志の強さ (5項目; $\alpha = .691$)	19.10 5.15	19.64 4.05	22.28 4.58	19.90 4.25	
頑固 (5項目; $\alpha = .643$)	16.17 4.83	15.70 4.28	16.25 4.09	16.82 4.91	
尺度総得点 (15項目; $\alpha = .738$)	52.31 10.85	52.10 8.89	55.91 10.72	53.98 9.95	

上段：平均値，下段：標準偏差

** $p < .01$

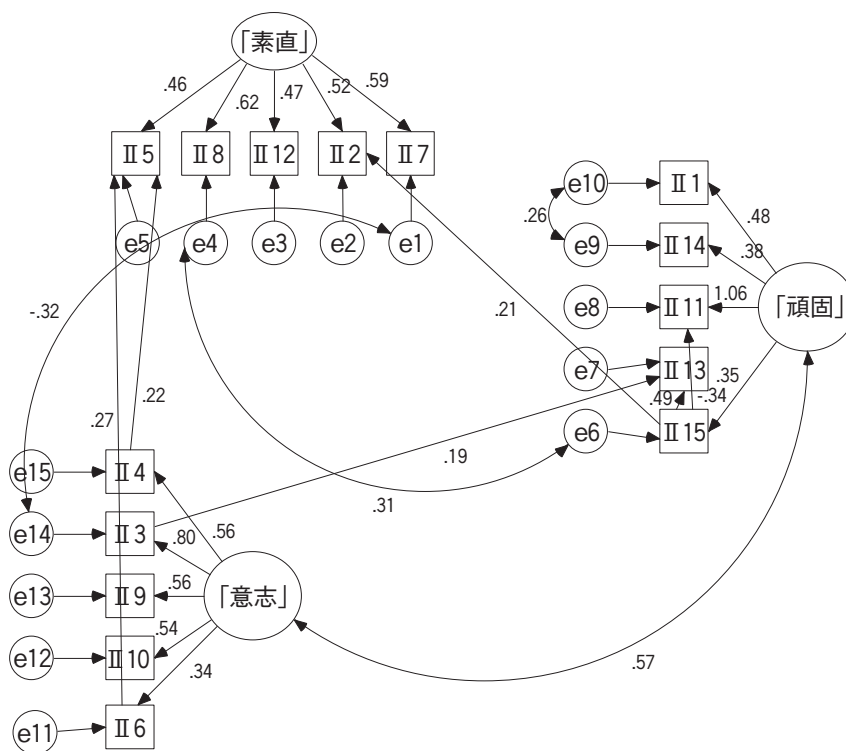


図1 高校生の意地尺度（短縮版）の確認的因子分析

表 4a 高校生イメージ因子分析
(主因子法, Promax回転)

	I	II	III
にぎやかな	.81	.08	-.19
明るい	.81	.13	-.18
積極的な	.74	.30	-.14
楽しい	.69	-.13	.18
大胆な	.66	.22	-.10
親しみやすい	.53	-.27	.18
冷たい	.26	.82	.14
怖い	.13	.70	.21
つきあいにくい	-.21	.61	-.09
不安定な	.19	.54	.06
暗い	-.12	.52	.51
静かな	-.23	.21	.76
優しい	.38	-.23	.51
繊細な	-.03	.15	.43
落ち着いた	.00	-.24	.43
保守的な	-.19	.19	.33
因子間相関	I	II	III
I	-	-.33	.19
II		-	-.20
III			-

表 4b 大学生イメージ因子分析
(主因子法, Promax回転)

	I	II	III
明るい	.75	-.07	-.06
楽しい	.75	-.12	.06
にぎやかな	.70	-.05	-.18
親しみやすい	.61	-.34	.14
積極的な	.61	.38	-.22
大胆な	.55	.42	-.12
優しい	.48	-.20	.44
不安定な	.19	.08	.08
冷たい	.13	.77	.20
怖い	.05	.70	.06
つきあいにくい	-.17	.62	.08
静かな	-.01	.27	.73
暗い	-.15	.19	.55
繊細な	.01	-.11	.51
落ち着いた	.18	.07	.49
保守的な	-.20	.02	.43
因子間相関	I	II	III
I	-	-.32	-.01
II		-	-.19
III			-

表5 イメージの平均値と標準偏差

	全体 (N=171)				男性	女性	分散分析
	平均値	標準誤差	歪度	尖度	(N=110)	(N=61)	
明るい	2.96 1.36	.06	.22	-.88	3.31 1.38	2.85 1.46	
大胆な	3.97 1.44	.07	-.47	-.78	3.95 1.54	3.54 1.61	
積極的な	3.98 1.45	.07	-.50	-.71	3.94 1.50	3.49 1.51	
落ち着いた	2.30 1.28	.06	1.08	.69	2.24 1.34	2.03 1.08	
優しい	2.35 1.14	.05	.67	-.08	2.38 1.22	2.36 1.05	
楽しい	2.70 1.25	.06	.41	-.50	2.67 1.36	2.92 1.19	
にぎやかな	3.21 1.42	.07	.07	-.93	3.42 1.49	3.46 1.35	
親しみやすい	2.34 1.18	.06	.76	.26	2.44 1.29	2.39 1.07	
暗い	2.70 1.26	.06	.40	-.60	2.65 1.33	2.51 1.23	
繊細な	3.19 1.59	.07	.13	-1.23	3.05 1.66	3.16 1.77	
保守的な	3.88 1.57	.07	-.41	-.96	3.58 1.69	3.72 1.78	
不安定な	3.79 1.47	.07	-.28	-.94	4.09 1.57	4.03 1.45	
冷たい	3.42 1.39	.07	-.09	-.85	3.22 1.45	3.26 1.43	
怖い	3.54 1.43	.07	-.16	-.85	3.08 1.40	3.61 1.56	*
静かな	2.53 1.24	.06	.71	-.05	2.28 1.22	2.34 1.14	
つきあいにくい	4.27 1.39	.07	-.57	-.47	4.12 1.53	4.05 1.40	

* $p<.05$

表6 高校生と大学生の平均値と分散分析

	大学生 (N=281)	高校生 (N=171)	分散分析
明るい	2.85	3.15	*
	1.31	1.42	
大胆な	4.06	3.81	
	1.35	1.57	
積極的な	4.10	3.78	*
	1.40	1.51	
落ち着いた	2.38	2.16	
	1.30	1.25	
優しい	2.33	2.37	
	1.13	1.16	
楽しい	2.66	2.76	
	1.22	1.30	
にぎやかな	3.07	3.43	**
	1.39	1.44	
親しみやすい	2.29	2.42	
	1.16	1.21	
暗い	2.76	2.60	
	1.24	1.30	
繊細な	3.25	3.09	
	1.52	1.70	
保守的な	4.04	3.63	**
	1.45	1.72	
不安定な	3.63	4.07	**
	1.41	1.52	
冷たい	3.54	3.23	*
	1.34	1.44	
怖い	3.71	3.27	**
	1.38	1.48	
静かな	2.67	2.30	**
	1.26	1.19	
つきあいにくい	4.38	4.09	*
	1.32	1.48	

* $p<.05$ ** $p<.01$